

02 不動産利活用

基本情報



【年齢】
43歳
【出身地】
宮城県栗原市
【転出元】
宮城県仙台市
【前職】
会社員（建設会社）
【活動時期】
R4.4~R7.3

協力隊に応募したきっかけ

大好きな地元、栗原市のために働きたい一心で協力隊に応募しました。きっかけになったのは約10年前、母校の岩ヶ崎高校が無くなるかもしれないという噂を耳にした事です（現在も無くなっておりません）。母校と地元が大好きだった私は、寂しさと共に帰郷して地域に貢献したい気持ちを強く持ちました。それからUターン移住までの間に独学でwebのスキルを習得、地域に愛されるクラフトビール醸造所を設立する事を決め、協力隊に応募。妻と当時1歳の子どもと共に移住しました。

今後の抱負・任期後の目標

来年、地域に愛されるクラフトビール醸造所を設立します。資金、技術、経験がどれも無くゼロから立ち上げるため、地域の方と一緒に造り上げる事が出来るのが強みだと考えております。協力隊になってからお会いする方全員にクラフトビール醸造所を造りたいとお話しし、大変多くの方に応援をいただいております。地域の皆さんと一緒に、「どうやったら地域に愛されるか」を考え、地域のお店や会社、ブランドとコラボし栗原市の素晴らしさを発信していきたいと考えております。

活動内容

●商店街の新規出店のサポート

六日町通り商店街シャッター開ける人！として、新規出店のサポートを行っております。先輩協力隊の活躍もあり、シャッター商店街から8年で21店舗の新規出店、2021年はばたく商店街30選に選出されるという実績を残しております。



●商店街のイベントの企画・運営

商店街の集客イベントとして春から秋にかけて定期的にイベント実施しております。中でも40年続く「くりこま夜市」は、一時期は来場者が少なすぎてイベント自体を止める案が出たところから、本年は一回あたり1万人の来場者を記録するまでになりました。



●クラフトビール醸造所立ち上げ

商店街のシャッターを自身でも開ける活動として、クラフトビール醸造所を造ります。地域の高校によるラベルデザインや、農家さんに協力していただき特産品であるお米を原料にする等、地域みんなで造るビールを目指します。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））daiki.miura0521@gmail.com
（電話番号（個人））080-3325-2823

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Facebook）<https://www.facebook.com/daiki.miura.142/>



基本情報



【年齢】

34歳

【出身地】

新潟県三条市

【転出元】

東京都荒川区

【前職】

RFA(2014-2021)

,and Sato Architects主宰
(2021-)

【活動時期】

R4.8～活動中

協力隊に応募したきっかけ

大学進学・就職で東京に15年ほどいましたが、独立し、自身の建築設計事務所をはじめ、今後のライフスタイルをどうするか考えていたタイミングで、地元である三条市で空き家対策をミッションとする協力隊を募集しているのを見つけたことがきっかけです。空き家というのはまさに建築の領域そのものであり、その活用方法を考えることは街の将来につながります。これまで培ってきた建築・都市に関する専門性・キャリアとも親和性があり、地元にも貢献できると感じたため、協力隊への応募を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

自身の設計事務所で建築設計を行いながら、引き続き三条市のまちづくりに関わっていきたくと考えています。協力隊に着任してまもなく、燕三条エリアの民間プレイヤーを中心に空き家対策を行う団体である(一社)燕三条空き家活用プロジェクトの設立、商店街の空き家を改修・活用した「三-Me.」の立ち上げ支援を行いました。また前職では建築の設計だけでなく、地方自治体のまちづくりやエリアビジョンの計画立案にも携わってきたので、キャリアや経験も活かし、地元三条市のまちづくりに貢献していきたいと考えています。

活動内容

●空き家相談窓口対応

空き家の所有者が抱える金銭面や利活用、相続等の悩み・相談を建築や不動産の専門家として専門知識を元と一緒に解決していきます。必要に応じて、提携する各種専門家・団体への橋渡しも行っています。



●空き家等の流通・利活用・管理・除却の促進

空き家バンク等を通じた空き家等の市場流通や補助金等による活用・除却の支援、マッチング後の利活用しやすい環境の整備などを市の関係部局や提携団体と連携しながら取り組んでいます。



●空き家の解消に向けた啓発や発信

空き家問題は所有者・関係者等が「自分事」として考えることが解決の第1歩となるため、イベントの開催や広報物・ステッカー等を作成し、継続的に打ち出すことで、空き家に対する市民の意識啓発に取り組んでいます。



●自治会へのヒアリングによる空き家の掘り起こし

民間の空き家対策団体と連携し、自治会長・民生委員に自治会内で把握している空き家調査を実施しました。市内にある空き家の可視化を行い、所有者に空き家相談窓口や空き家バンクの利用を促しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス：職場) kankyo@city.sanjo.niigata.jp(メールアドレス：職場) vh.worker@gmail.com

(電話番号：個人) 090-1453-3894

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(燕三条空き家活用プロジェクト) www.tsubamesanjo-akiya.jp/(,and Sato Architects) www.and-sa-to.com